

町政モニター感想文 ③

「町政モニター」は、住民の皆さんの町政に対する意見を広く聴かせていただき、今後の行政施策に反映するとともに、参加者の皆さんに、まちづくりなどについて考え、行政問題の解決策の立案に参加する機会としていただくことを目的としています。

平成13年度に参加された皆さんの感想文を、本誌上で数回に分けて掲載しています。

「町政モニターへ

参加して」

瀬戸垣内 直子

町政モニターへの動機は「住みよい町づくり、活気ある町づくり」わが町を誇りとし、他の町村にはない独自のカラーづくりが出来ないものだろうか?と言った思いで応募をしました。

月1回のペースでモニター

会議が行なわれ、テーマにそった意見や発表がなされ、色々学ばせていただきました。そのテーマの中の1つである「身近な話題」において、①昨年の6月、深原地区「ホテルの舞」がすばらしかったこと、②「サギ草」が自生している場所は草に覆われ撲滅するのではないかと言うことを述べさせていただきました。自然に親しみ知ることは自然を守る第一歩です。ぜひ守りたいものです。

町が掲げている「三世代が

住みよい緑の生活創造都市」を基本理念として将来の町づくりの方向性を定めた「第4次熊野町総合基本計画」を策定、その際熊野町が整備すべき施設についてアンケート調査を実施、その結果、1位幹線道路、2位医療施設、3位

地区内の生活道路、4位街路燈・防犯灯、5位下水道、6

位老人福祉施設、7位公園の回答が寄せられたようだ。合併することにおいて以上の施設の整備が促進されるのかどうか、合併によるメリット・デメリットなど判断材料となる情報提供を町へお願いしたい。

終わりに、町づくりの主役は我々住民であり、自分たちの町を誇りに思い、快適な暮らしをするためには、町と一体となり努力しなければならぬと思います。会議へ参加して、とても嬉しかったことは、住民の方の要望をすぐに対応していただいたことです。今後とも町政モニター制度が継続されることを願っています。ありがとうございました。

富田 邦 男

町政モニター会議でまず感じた事は、身近な問題点が毎月新しく出され討議するけれども、個人的に温度差があり、何れの問題も審議未了が多く、これら諸問題を考えた時、会

の運びとして、先月の審議未了の件を再度継続審議として、ある程度の結論を出す様にすれば、町民の民意を集約実現に向けて推進されたのではないだろうか。特に福祉問題については、実績範囲が狭く、

この点は町長も認めておられるとの話、人を差別しない、住みよい町づくり、明るい熊野町をつくる為にも、まず出来る事から着手してはどうだろうか。高齢化の進む中で、今、全国的に歩け、歩けの運動が展開されている中で、熊野町としても、憩いの場となる公園の設備、住民の健康増進、相互親睦の為、車の走らない遊歩道を整備、東から西から歩き出合い、中央に簡単な休憩所を設け、歩み寄った人達が、町の軒並みをながめながら、今昔の思い出に花を咲かせる楽しいひとときがあれば、高齢者の皆さんも、心からの幸せを身を感じるのではないだろうか。温水プールの建設もその一つ、泳ぐのもよいし、ただ水中を歩くだけでも健康によい事は医者もす

ずめている。一度議題の中で出したが、そのままとなっている。

町政モニター会議に参画して、町職員の日常の苦勞や、私達が要望した事項の中でも、なかなか一朝一夕にはその実現は難しく、やはり長い時間を掛け、努力を続けていけば、本当に満足度向上につながり、住みよい緑の生活都市熊野町の達成に必ずつながる事と考えています。再度申し述べますが、今回、町政モニター会議に参画した事で、町民が納得出来て、協力させる為には、難しい問題のあまりにも多い事がよく判り、よい経験と勉強になりました。



▲平成13年度町政モニターの様子

(企画課TEL 820-5602)